

# 南の森にくらすらヤマネは ほとんど冬眠 しない!?



2013年12月25日



2014年2月3日



安田 雅俊

九州支所 主任研究員

写真1 自動撮影カメラでとらえた冬に活動するヤマネ。  
辺塚国有林3106林班（図1の調査地B）にて撮影。

## 南のヤマネは冬眠する？ しない？

ヤマネ(写真1)は、日本の固有種で、国の天然記念物に指定されている小型の哺乳類です。体重は20gほどで、木の上でも昆虫や果実、花の蜜などを食べ、木のうろ(樹洞)などをねぐらにします。体全体は茶色で、背中に1本の黒い筋状の模様があり、尾には毛が生えています。本州、四国、九州の低地から高山に分布します。

ヤマネの最大の特徴は、食物が少なくなる秋から翌春にかけて冬眠することです。秋になり気温が下がると、樹洞や地面の下で冬眠に入ります。冬が長く厳しい本州中部以北では、6~7ヶ月の間、冬眠することが知られていますが、温暖な関西以南の生息は、ほとんどわかっていません。

謎につつまれた、温暖な九州の照葉樹林でのヤマネの生態をあきらかにするために、ヤマネを効率的に調査する方法を開発しました。ヤマネは樹洞を利用します。そこで、樹洞のかわりに1ないし複数の出入口のある巣箱を木の上に設置し、訪れるヤマネを自動撮影カメラで観察しました。この方法で、九州のヤマネの冬眠期間は、北部(長崎県多良山系、図1の調査地A)では2~3ヶ月、最南端(鹿児島県大隅半島、図1の調査地B)では20日未満であることがわかりました。ほとんど冬眠しないヤマネの存在が発見されたのは日本で初めてです(写真1)。

## 深まる冬眠の謎

大隅半島南部では、気温がやや下がった時期にだけヤマネが撮影されませんでした(図2)。冬眠期間が短い理由として、この冬の気温(日平均気温の平均値9.0℃)が、ヤマネが冬眠入りするとされる気温(8.8℃)と同程度までしか下がらないことが関係していると考えられます。温暖な照葉樹林では、冬も食物を得られるため

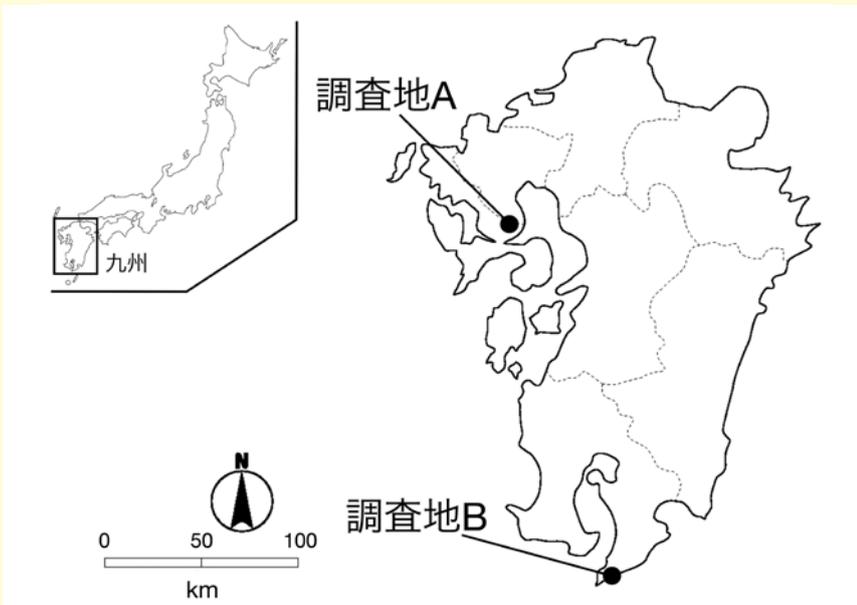


図1 調査地の位置。

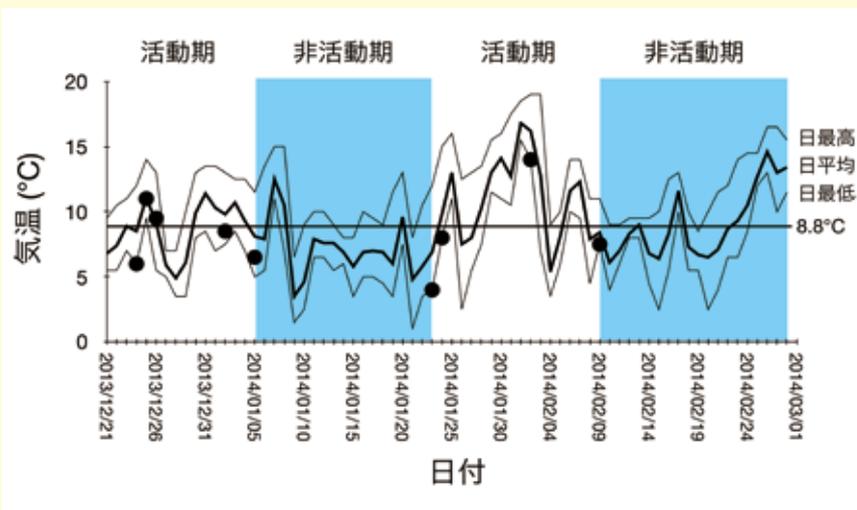


図2 南限(図1の調査地B)のヤマネの冬の活動と気温。●はヤマネが撮影された日時の気温を示す。気温がやや下がった時期には撮影されなかった(非活動期)。

に、冬眠期間が短いでしょう。暖冬などの気候条件によっては冬眠しない個体の出現が予想されます。ヤマネの活動の季節性は、森林の植物や昆虫の季節性と密接に関係していると考えられますが、それが寿命や生息にどのような影響をもたらしているのかはまだ不明です。冬の間も活動するヤマネは何を食べ、どのように生きているのでしょうか?南の森のヤマネを調査することによって、「冬眠すること」と「冬眠しないこと」の意義があきらかになるでしょう。